
青空を掴みし少年

アストラル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青空を掴みし少年

【Nコード】

N3132Z

【作者名】

アストラル

【あらすじ】

建築の勉強をするために地元を離れて市立朧山高等学校に進学した少年、朝槻康介。

趣味の遊戯王を高校ではやらない覚悟で勉強に臨もうとした彼は、入学式の日に運命的な出会いをする。

「あなた、遊戯王やってるでしょ？」

「まあ、一応は。」

「私もやってるの。ということ、デュエルしない？」

この出会いを境に、勉強漬けの毎日になるはずだった康介の高校生活が大きく変わることになる。

この小説はリレー小説です。

以下参加者一覧

アストラル様

通りすがりのデュエリスト様

ユタ様

HIRO様

BRAVE様

龍南様

新しい出会い

市立瀧山高等学校

毎年工業、建築分野で優秀な人材を輩出している高校であり遠い地方からの受験希望者もいるほどの人気校。

寮などの設備が下手な私立よりも充実している上に学費がそれほど高くないので自然と倍率が高くなる。倍率は約10倍。

その高校に田舎の方から入学した者の出来事である

その少年の名は朝槻康介。

将来の夢は建築家で、工業、建築分野で有名なこの学校に入る為必死に勉強した少年だ。

康介の趣味は遊戯王というカードゲームだ。

康介はそれなりに強く、プレイミスも少ない為、負けも少ない。

だが、高校では勉強に取り組みたいので、ここでは趣味の遊戯王、つまりデュエルをしないという覚悟でこの高校で入学した。

が、デッキに思い出がある為、高校にデッキを持ってきてしまっていた。

（はあ、デュエルしないって誓ったのにデッキ持ってきちゃ意味ないよねえ）

高校の門の前で色々と考え事をしていたら、中に入っていく生徒も少なくなってきた。

そろそろ行かないと入学初日で遅刻してしまうだろう。

康介は自分の胸に手を置き、一度深呼吸をする。

(すう、はあ。まあ、なんとかなるだろ)

康介はもう一度デュエルはしないと誓い、門をくぐった。

「新入生のみなさん、入学おめでとうございます。この高校は
の為 になる資格を
」

(……長い)

今は入学式の真つ最中。新入生代表の挨拶、教師の紹介、この高校の目的、そして今話している校長先生の話。

新入生代表の挨拶などはそこまで時間がかからなかったが、この校長は一段と話が長い。まあ、それなりの高校なので校長の話は長いかもれないが、これは長すぎないかというぐらい長かった。

しかも康介の苗字は朝槻。あから始まるため一番先頭にいるのだ。そのため眠れない。

寝れたとしても教師に見つかれば、今後の成績に響くか、最悪の場合退学になるかもしれない。

というようなくだらないことを考えていてもまだ校長の話は終わっていないかった。

(まだ続いているし……あ、そういえば、あのカードをデッキに入れば……)

朝槻康介、15歳。趣味の遊戯王もとても熱心にやっていた。

中学のときの癖で暇があるとデッキ構成を頭の中で考え始める。

その際少しだけ口にしていたようだった。ブツブツ言っていたことが隣にいた女子に聞かれていたことも知らずに。

「ねえ、あなた」

「ん？」

入学式がやっと終わり、康介はクラス割表を見ていた。その時、ひとりの女子に声をかけられた。

「……俺？」

「そう、あなた」

康介は自分が声をかけられたとは思わず、自分の周りを見渡す。だが、自分が声をかけられたことに気づいた。

「私は奥斑茜おくまよ。よろしくね」

「俺は朝槻康介だ。それで俺になんの用があるんだ？」

「あなた、遊戯王やってるでしょ」

「まあ、一応は……」

「私もやってるの。ということ、デュエルしない？」

「は？」

新しい出会い（後書き）

次回は龍南様です！

双方の実力（前書き）

今回書いた方は龍南様です！

双方の実力

「は？」

いきなりこいつは何言ってるんだ？普通初対面の人に『デュエルしない？』っていうか？

「いや俺は高校ではデュエルしないって決めてるから。」

「その割にはさっき入学式でデツキ構成考えてたでしょ？」

「……聞こえてた？」

「ええ。」

……まいったなあ。聞こえてたか。デュエルしないって決めてるのにデツキ構成考えてちゃいけないよな。

「そんなことだったらデツキも持ってきてるんじゃない？」

「……持ってきてる。」

「それデュエルするって言ってるのと同じでしょ。」

「……おっしやる通り。」

だよな。

「だからデュエルしよ。」
「だからどうしてそうなるんだ？」

「まあいきなりデュエルするのも難だし、HR終わったらカードシヨップ行かない？」

「・・・だからよくまあ初対面の人にそんなこと言えるなあ。ま、カードシヨップに付き合っぐらいならいつか。」

「いいよ。」

「やった！じゃあ後でそっち行くね。」

「・・・はあ。こんなんで高校生活大丈夫なんだろうか・・・？」

とこのことで俺は奥斑茜と一緒に今学校近くのカードシヨップにいる。

のだが・・・、

「さてカードシヨップに着いたことだし、早速デュエルしよう。」

着いた途端これかよ！

まあ確かにデュエルスペースがあり、そこでみんなデュエルしている。ここならだれの目も気にせずデュエルできる。けど、

「だから俺は高校ではデュエルしないって言ったよね？」

「でもデッキ持ってきてたんじゃあ意味ないってこっちも言ったよね？」

「・・・はあ、しつこいな。まっいつか。1回ぐらいならやってやるか。」

「わかったよ。1回だけやってやるよ。」

「やった！じゃあ早速やろつ。」

「わかった。」

「・・・こんなんで大丈夫かな？まあなんとかなるだろう。」

「じゃあいくよ。」

「おう。」

「「デュエル！」」

康介 LP8000

茜 LP8000

じゃんけんにより先攻は俺になった。

「俺のターン、俺は調律を発動。デッキよりクイック・シンクロンを手札に加え、デッキトップを墓地に送る。」

落ちたのは・・・おろかな埋葬かよ。お前が落ちちゃだめだろ・・・。

「手札のグローアップ・バルブを墓地に送りクイック・シンクロンを特殊召喚。そしてレベル・ステイラーを通常召喚。」

クイック・シンクロン DEF/1400

レベル・ステイラー ATK/600

「レベル・ステイラーにクイック・シンクロンをチューニング！
ドリル・ウォリアーをシンクロ召喚。」

LV1+LV5=LV6

ドリル・ウォリアー ATK/2400

「ドリル・ウォリアーの効果で手札のスポーアを墓地に送りゲームから除外。カードを1枚伏せてターンエンド。」

キーのダンディ・ライオンがない割にはよく回ってるな。

「じゃあいくよ。私のターン、私はレスキューラビットを召喚。」

レスキューラビット ATK/300

「そしてレスキューラビットの効果発動。レスキューラビットを除外し、デッキからセイバーザウルスを2体特殊召喚。」

セイバーザウルス ATK/1900

「そしてセイバーザウルス2体でエクシーズ！エヴォルカイザー・ラギアをエクシーズ召喚。」

エヴォルカイザー・ラギア ATK/2400

げ！ラギアかよ。こいつはやつかいだなあ。

「エヴォルカイザー・ラギアで直接攻撃。」

「畏カードくず鉄のかかしを発動。その攻撃は無効にする。」

「・・・いいわ。私はカードを2枚伏せてターンエンドよ。」

ちえっ。かかしにラギアの効果を使ってくるかなあと思ったけど使わなかったか。

「俺のターン。」

「そのドローフェイズにマクロコスモスを発動。」

「な！」

やっぱりそうか。レスキューラビットが出た時点で予想はしてたが次元ラビットか。ちなみに俺のデッキはクイックダンディだ。

だがこうなると厳しいな。とりあえずは、

「スタンバイフェイズにドリル・ウォリアーの効果発動。ドリル・

ウォリアーを特殊召喚し・・・」

「カウンター畏神の警告を発動。」

止められた・・・。

茜 LP8000 6000

くそっ！マクロコスモスがあるから墓地のグローアップ・バルブの効果は使えない。しかもまだラギアの効果も使われてない。ここは耐えるしかないか。

「モンスターをセット。ターン終了。」

「私のターン、レスキューラビットを召喚し効果発動。レスキューラビットを除外しハウンド・ドラゴン2体を特殊召喚。」

ハウンド・ドラゴン ATK/1700

「このハウンド・ドラゴン2体でエクシーズ！リバイス・ドラゴンをエクシーズ召喚。」

No.17リバイス・ドラゴン ATK/2000

「リバイス・ドラゴンの効果発動。エクシーズ素材を1つ取り除いて攻撃力を500ポイントアップ。」

リバイス・ドラゴン ATK/2000 2500

「ラギアでセットモンスターに攻撃。」

「セットモンスターはシールド・ウィング」

シールド・ウィング DEF/900

「やっかいなモンスターね。ターン終了よ。」

「俺のターン。」

さてまずはこれからかな。

「ブラックホール発動。」

「もちろんラギアの効果で無効にするわ。」

まあそうするよな。

「サイクロン発動。マクロコスモスを破壊する。」

これで除外されることはない。

「ローンファイアブロッサムを召喚。」

ローンファイアブロッサム ATK/500

「ローンファイアブロッサムの効果でこのカードをリリースしてダ
ンディライオンを特殊召喚。」

ダンディライオン DEF/300

「そして墓地のグローアップ・バルブの効果発動。デッキトップを墓地に送りグローアップ・バルブを特殊召喚。」

グローアップ・バルブ DEF/100

墓地に送られたのは・・・お、ボルト・ヘッジホッグだ。ラッキー。これで直接あいつを召喚できる。

「今墓地に送られたボルト・ヘッジホッグの効果発動。フィールドにチューナーがいるとき、特殊召喚できる。」

ボルト・ヘッジホッグ DEF/800

「シールド・ウィングとダンディライオンとボルト・ヘッジホッグにグローアップ・バルブをチューニング！スクラップ・ドラゴンをシンクロ召喚。」

LV2+LV3+LV2+LV1=LV8

スクラップ・ドラゴン ATK/2800

「ダンディライオンの効果で綿毛トークンが守備表示で2体出てくる。」

綿毛トークン DEF/0

「さらにスクラップ・ドラゴンのレベルを1つ下げ、墓地のレベルステイラーを特殊召喚。」

レベルステイラー DEF/0

「スクラップ・ドラゴンの効果発動。レベルステイラーとリバイス・ドラゴンを選択して破壊する。そしてスクラップ・ドラゴンでラギアに攻撃。」

茜 LP6000 5600

「メインフェイズ2にスクラップ・ドラゴンのレベルを1つ下げてレベルステイラーを特殊召喚しターン終了。」

ふう。これだけやれば十分だろ。さあこの布陣をどう突破する？

「私のターン、カードを3枚伏せてターン終了よ。」

伏せただけか。でも3枚もあるな・・・。

「俺のターン、スクラップ・ドラゴンの効果発動。レベルステイラーと右の伏せカードを選択。」

（奈落の落とし穴が選択された！？でもレベルステイラーは墓地にはいかせない！）

「マクロコスモス発動。そのレベルステイラーは除外させてもらっわ。」

くっ！レベルステイラーが除外されたか。でも奈落を破壊できたのはラッキーだな。

「シンクロン・エクスペローラーを召喚。効果により墓地よりクイツク・シンクロンを特殊召喚。」

シンクロン・エクスペローラー ATK/0
クイック・シンクロン DEF/1400

「シンクロン・エクスペローラーと綿毛トークンにクイック・シンクロンをチューニング！ジャンク・デストロイヤーをシンクロ召喚。」

LV2+LV1+LV5=LV8

ジャンク・デストロイヤー ATK/2600

「ジャンク・デストロイヤーの効果でマクロコスモスと残った伏せカードを破壊する。」

「チェインして凡人の施しを発動。2枚ドローして手札のセイバーザウルスを除外するわ。」

「スクラップ・ドラゴンとジャンク・デストロイヤーで直接攻撃。」

茜 LP5600 200

「ターン終了。」

「・・・強いわね。」

「そりゃどつとも。」

「正直これじゃあ勝てる気はしないわね。でも諦めはしないわよ。私のターン！ブラックホール発動。」

ここにきてブラックホールかよ。

「闇の誘惑を発動。2枚ドロして手札のハウンド・ドラゴンを除外する。レスキューラビットを召喚。そしてレスキューラビットを除外しジエネティック・ワーウルフ2体を特殊召喚。」

ジエネティック・ワーウルフ ATK/2000

「このジエネティック・ワーウルフ2体でエクシーズ！希望皇ホープをエクシーズ召喚。」

NO.39希望皇ホープ ATK/2500

「ホープで直接攻撃。」

「お前こいつを忘れてるな？くず鉄のかかしを発動。」

「・・・すっかり忘れてたわね。ターン終了よ。」

さて、今の攻撃は防げたがいつくず鉄のかかしがいつ破壊されるかわかんないし、できれば早めに決着つけたいな。

「俺のターン。」

・・・まじかよ。何だこの引きは。

「死者蘇生を発動。スクラップ・ドラゴンを特殊召喚。」

「ここで死者蘇生！？・・・まいったわね。私の負けね。」

「ああ。スクラップ・ドラゴンの効果発動。くず鉄のかかしとホー
プを選択して破壊。そしてスクラップ・ドラゴンで直接攻撃。」

茜 LP2000

「はあ。結局ダメージを与えられずか。」

「まあ今回は都合よくカードがきすぎたな。さて帰るか。」

「もう帰のね。まあいいわ。今日はありがとう。」

「ああ、こちらこそ。じゃあな。」

「あつ、待つて。こうして会ったんだしアドレス交換しない?」

「まあそれぐらいならいいぞ。」

はあ、まさか高校に入って最初のアドレス交換が女子とはな。予想
外だ。

「じゃあな。」

「じゃあね。また明日ね。」

こうして波乱に満ちた高校生活初日は幕を閉じた。

双方の実力（後書き）

次回は俺です。

何と言っか・・・何をやれと？

新たな絶望（前書き）

今回は私、主催者のアストラルが書きました。

新たな絶望

母親が急にお金をそっちの生活費に回せないから、バイトしてくれとメールが入った。

あれ？ヤバくね？

高校の学費等は払えたらしいからバイトの給料は自分の物にしていいらしい。

・・・面接は明日か、寝よう。

・・・次の日・・・

「で、朝槻康介君、君は何でここで働きたいの？」

そう聞いてくるのは茶髪で巨乳な美人なお姉さんだ。

横にはボサボサな髪型な眼が死んだような同年代の男。

彼はジーンズの素材でできたエプロンを着けていて、白い長袖のシヤツにジーンズ、黒い運動靴を履いていた。

「生活費の為です」

「わかった、これから我が中華料理店、瀧川亭の従業員として働いてくれ！」

男勝りな人だなあ・・・。

「瀧川亭じゃなくて瀧川軒でしょう、店長」

「康太、料理人としてはこの時間帯、一人で今まで大変だったろ？」

「一人生け贄じゃなくて下っ端が入ったぞ」

困った・・・生け贄扱いされたし・・・。

「あの・・・料理できません」

「ウェイターが一人増えただけじゃないですか店長。これじゃ、まだまだ一人で店回さなきゃならないじゃないですか！」

「かわいそうな人だなあ・・・。

「康太から料理習いながら頑張れ」

「無理です！」

「失敬な、俺の料理歴は10だぞ！足手まといがいても教えながら回せる！」

この人、化け物かよ！

ちなみにこの店は、チェーン店じゃないのにかなり繁盛しているよ
うで、時給が高校生で890円だった。

それ以外は1000円だ。

「それじゃ自己紹介をするぞ。私が店長でたまにウエイトレスをや
つてる藤原陽子。25歳で独身、趣味は康太弄りと裁縫とデュエル
だ。よろしく」

茶髪で巨乳の美人なお姉さんは藤原陽子さんか。

「俺は高嶺康太。市立東瀧川高等学校2年だ。16歳で彼女いない
歴11年かな悲しい奴だ。趣味はデュエルと睡眠、よろしく」

死んだような眼をした上級生の高嶺康太さんね。

「私はウエイトレスの中野葵だよ。趣味はギターを弾く事。康太と
同い年で市立東瀧川高等学校2年だよ。よろしくね！」

胸が殆どなくて黒髪ロングの髪型の小さな女の子が中野葵さんね。

「俺の名前は朝槻康介です。趣味は特にありませんが強いて挙げる
とデュエルです。よろしくお願いします！」

そう言った後、高嶺先輩が近づいて来た。

そして「店長に気をつける、デュエルを挑まれたら逃げるかはぐら
かせ。さもないと心折れるぞ。ちなみに初見でやり合った奴はリン
チよりも一方的に潰されてる」と耳打ちされた。

怖いなあ。。。。

・・・次の日・・・

「唐揚げの下味はあと100g生姜を多く入れるんだ！餃子のニン
ニクはもつと細かく！」

「はい！」

高嶺先輩は厨房ではかなり厳しいが休憩室だと優しい。

高嶺先輩と休憩中にデュエルしていたらE・HEROデッキにボコボコにされた。

アースって狂気の塊だって初めて知ったよ……。

「4番テーブルのお客様は、唐揚げと炒飯、ラーメン定食だよ！」

「わかった！唐揚げは揚げてあるやつがあるしラーメン定食は餃子と炒飯はコンロは空いてるし一気にやれるな。ラーメンは麺を入れてトッピングするだけだ！任せるぞ、朝槻！」

「はい！」

ラーメンの作り方は教えられた通りトッピングするだけだ。

メンマ4つ、叉焼1つ、海苔2枚だ。

麺は50秒茹でてと……。

そんな感じで過ぎていくバイトの時間。

「じゃあ俺達こっちだから」

中野先輩と高嶺先輩があっちへ向かっていく。
俺も帰るか。

新たな絶望（後書き）

今回はHIRO様をお願いします。

これで回す順番が、通りすがりのデュエリスト様 ユタ様
アストラル HIRO様 BRAVE様と決まりました。 龍南様

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3132z/>

青空を掴みし少年

2012年1月3日04時00分発行